

# 『山川菊栄の フェミニズム』



## 生きること、 表現すること、 闘うこと』

講師：鈴木裕子さん

『忘れられた思想家 山川菊栄  
フェミニズムと戦時下の抵抗』(梨の木舎刊) 著者

\*\*\*\*\*

◎日時：2023年11月3日(金)

17:30~20:00 (開場17:15)

◎会場：あめにていかふえ 梨の木舎

(東京都千代田区神田三崎町2-2-12 エコービル1階)

◎参加費：ご予約 1500円 当日 1800円

◎定員：15名

◎お問合せ：050-3594-2951 (留守電対応)

whats.everything@gmail.com

★お申し込み：こくちーずプロ

(「鈴木裕子 山川菊栄」でご検索ください) ↓



<https://onl.sc/eVkzXkn>

※化学物質や電磁波に敏感な方への配慮  
をお願いしております。柔軟剤などの香  
料の強いものの着用を控え、講演中は携  
帯・スマホの電源をお切りください。

ここ数年、再び注目され始めた「山川菊栄」。

多数の著書・翻訳により、戦前からするどい社会批評を  
繰り広げ、窮状を訴えに来た朝鮮半島出身の少女たちに  
思いを寄せ、戦時中、言論の場所を奪われた時はうずら  
の卵を売るなどして糊口をしのぐ。戦後は労働省の初代  
婦人少年局長に就任した。

「貞操とは、男子の女子に対する独占の希望から発した、  
女子の個性萎靡、本能抑圧の要求であり、その拘束に冠  
した美名である」

今もハッとさせられる山川の言葉は、実は日本社会が現  
在も何ら変わっていないことをあぶりだします。

今年生誕130年。山川菊栄の誕生日である11月3日に、  
山川菊栄研究の第一人者である鈴木裕子先生に、その  
思想、生きざまについて、たっぷり語っていただきます。

ぜひ、ご参加ください。

共催：what's / 梨の木舎



what's



梨の木舎

<https://whats-everything.jimdofree.com/> / <https://nashinoki-sha.com/>

それにつけても日本もまた国内にしっかりした民主的政  
権を確立し、社会的、経済的な改革を行うことが必要〔中  
略〕アジアの進歩的勢力が何百年の暗黒時代を蹴破って  
力強く前進しつつある時、日本だけいつまでも半独立の  
姿で光に背をそむけ、腐敗した泥沼の中に浮き沈みして  
いいものでしょうか。

梨の木舎

## 忘れられた思想家 山川菊栄 フェミニズムと 戦時下の抵抗



1910年代後半、

菊栄は「女われら」の自主自立を訴え登場した。女性を性役割分業へと強制する男社会の告発、良妻賢母主義への論駁は、今日のフェミニストの主張にまっすぐにつながる。

鈴木裕子著

それにつけても日本もまた国内にしっかりした民主的政権を確立し、社会的、経済的な改革を行うことが必要〔中略〕アジアの進歩的勢力が何百年の暗黒時代を蹴破って力強く前進しつつある時、日本だけいつまでも半独立の姿で光に背をそむけ、腐敗した泥沼の中に浮き沈みしていいものでしょうか。

「アジア社会主義会議と日本」『婦人のこえ』1954年12月号菊栄は、1910年代後半、論壇に登場した。

### 【講師プロフィール】

鈴木裕子（すずきゆうこ）  
1949年東京生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。静岡大学法経短期大学講師をはじめ、明治大学、国士舘大学、東京経済大学、東京学芸大学の各講師。



早稲田大学文学部、同国際部、同文学学術院元教員。現在、早稲田大学ジェンダー研究所招聘研究員。上述の著書のほか、日本軍「慰安婦」問題、部落解放女性運動、『山川菊栄集』全10巻別巻1巻（岩波書店、1981-82年）、『新装増補 山川菊栄集』全8巻別巻1巻（岩波書店、2011-12年）、『山川菊栄評論集』（岩波文庫、1990年）、山川菊栄『女二代の記』（岩波文庫、2014年）校定・注・解説。『天皇家の女たち』（社会評論社、2019年）等多数。

1910年代後半、菊栄は「女われら」の自主自立を訴え登場した。

女性を性役割分業へと強制する男社会の告発、良妻賢母主義への論駁は、今日のフェミニストの主張にまっすぐにつながる。

女性を性役割分業へと強制させる、新旧の良妻賢母主義に激しく駁論し、「女われら」の息吹もなまなましく、女性の自主、自立を力強く訴えた。男本位につくられた社会に対する告発で、まさしく今日のフェミニストの主張に直結するものであった。山川菊栄の廃娼論、「母性と労働」両立論、家事労働論、産児調節論、セクシュアリティをめぐる「性暴力」認識などは、今日もおみずみずしさを失ってはいない。（中略）

当時の平塚らいてうの最大の関心は、女性としての「自我」の拡充にあった。菊栄にとっては、資本主義社会の不平等、不公正にあった。そのもとにあって非人間的に遇され、差別と蔑視の境 遇に追いやられている、「社会的弱者」に対する視点がより強く存在していたことに尽きる。（本文より）

### 【目次】

- 1章 菊栄の生い立ち
- 2章 社会主義、フェミニズムへの関心、山川均との結婚
- 3章 山川菊栄のフェミニズム思想と反軍国主義
- 4章 山川菊栄の「帝国のフェミニズム」批判と階級社会批判
- 5章 社会主義女性思想と社会主義運動の展開
- 6章 労働組合婦人部論争と「婦人同盟」問題
- 7章 帝国のフェミニズム・植民地主義批判
- 8章 山川菊栄の時局・戦争批判
- 9章 「国体観念」呪縛、民衆と女性の生活の疲弊
- 10章 戦争抵抗者の生き残り戦略—生活者の視点を貫く
- 11章 敗戦と山川菊栄
- 12章 非武装中立・平和主義・社会主義へ

梨の木舎：東京都千代田区神田三崎町 2-2-12 エコービル 1F  
TEL 03-6256-9517 JR 水道橋駅東口から徒歩 5分



柔軟剤・香水などの香りの強いものを身につけずにご参加ください。  
携帯電話・スマホ等のお持ち込みをお控えいただきますようお願い致します。



無香料 ケータイ禁止 スマホ禁止 タブレットも

電磁波や化学物質に敏感な方への配慮です。

どうぞご協力をお願い致します。

講演中は  
電源  
OFF!